

令和2年度シラバス（地理歴史）

学番 21 新潟県立阿賀黎明高等学校

教科(科目)	地理歴史(日本史B)	単位	4単位	学年(コース)	2年(国際コース)
使用教科書	新選日本史B(東京書籍)				
副教材等	最新日本史図表(第一学習社) 新選日本史Bワークノート(東京書籍)				

1 学習目標

我が国の歴史の展開を、諸資料にもとづき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、各時代の特色とその変遷の総合的考察を通じて、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深める。さらに、歴史的思考力をつちかい、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- ①基礎的・基本的な事項の定着を図る。
- ②資料や統計を読み取る力を育てる。
 - 小テストを單元ごとに実施する。
 - 授業に遅れがちな生徒に対する補習の実施。
 - 授業についてのアンケートを実施し、その結果を授業に反映する。
 - 作業学習を取り入れる。

3 指導計画

月	科目、章、節	学習内容	時間
4	第1章 古代国家の形成と貴族文化の誕生 1. 原始社会の生活と文化 2. 農耕社会の形成と大陸文化の摂取	1. 更新世の日本 2. 縄文文化 1. 弥生文化と小国家の形成 2. 大和王権と古墳文化	27
5	3. 律令国家の形成と古代文化の展開 4. 摂関政治と文化の和様化	1. 飛鳥の朝廷と文化 2. 律令国家の成立と白鳳文化 3. 平城京と天平文化 1. 平安遷都と唐風文化 2. 貴族社会と摂関政治 3. 国風文化	
1 学期 中間 考 査			1
5	第2章 武家社会の形成と生活文化のめばえ 1. 中世社会の成立	1. 院政と荘園 2. 平氏政権の登場 3. 鎌倉幕府の誕生 4. 執権による政治	27
6	2. 武家社会の形成と東アジア 第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開 1. ヨーロッパ文化との接触と国内統一	1. 室町幕府の創設 2. 倭寇と東アジアの交易 3. 下剋上の社会と戦国大名 4. 室町文化 1. ヨーロッパ文化との接触 2. 織豊政権による全国統一 3. 桃山文化	
1 学期 期 末 考 査			1
7	2. 幕藩体制の成立 3. 近世社会の発達と町人文化 4. 幕藩体制の動揺と庶民文化の発達	1. 江戸幕府と大名・朝廷 2. 身分制度の確立 3. キリスト教禁止と鎖国 1. 幕府政治の進展 2. 経済と産業の発達 3. 学問の新傾向と元禄文化 1. 幕藩体制の動揺と政治改革 2. 幕藩体制の危機 3. 新しい学問の形成と化政文化	24

8	課題 レポート		
9	第4章 近代国家の形成と国民文化の発展 1. 開国から明治維新へ	1. 開国 2. 幕府の滅亡 3. 統一国家の成立 4. 近代国家をめざして	5. 殖産興業と文明開化 6. 明治初期の国際情勢
2 学 期 中 間 考 査			1
10	2. 立憲政治の形成と国民文化 3. 日本の近代化と東アジア	1. 政府専制への批判 2. 立憲政治の成立 3. 新しい文化の形成	28
11	4. デモクラシーと第一次世界大戦	1. 第一次世界大戦と日本 2. 新たな国際秩序と日本への影響 3. 大衆社会の形成	
2 学 期 期 末 考 査			1
12	5. 激動する世界と日本	1. 揺れ動く経済と中国侵略の本格化 2. 日中戦争と国内体制の改編 3. 太平洋戦争	26
1	第5章 現代の世界と日本 1. 占領と国内改革 2. 国際社会への復帰と高度経済成長	1. 占領と日本国憲法の成立 2. 冷戦の開始と経済復興 1. 国際社会への復帰と対米協調 2. 経済の高度成長	
2	3. 石油ショックと低成長の時代	1. 1970年代の国際社会と日本 2. 安定成長への転換	
学 年 末 考 査			1
3	4. 新しい国際秩序と日本の課題	1. 激変する世界と日本 2. 停滞する日本経済と成長するアジア	4

1 単位時間は 47 分間

計 152

4 課題・提出物等

進度ごとのまとめプリントやノート提出、長期休暇中のレポートなど

5 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現		③資料活用の技能	④知識・理解
関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・理解
日本列島で人類が文化を作り上げていく過程に関心を持ち、現代の日本の文化がどのようにつくりあげられるかを理解し、自分の生活と歴史を関連づけることができる。	自分が調べたことや疑問に思ったことを発表し、または他者に質問することにより、自分の学習に役立てることができる。	課題レポートやテストの論述問題などで、自分が調べて学習したことを文章として表現することができる。	教科書の文章だけでなく、図表の写真や絵画・年表などを読みとり、学習に役立てることができる。	日本の歴史は東アジアや他の地域と交流のなかで築かれていくこと、また様々な階層の人々によりつくられていくことを理解することができる。
以上の観点を踏まえ、定期考査の点数や提出物の内容、授業中の取組など総合的に判断し、100点法および5段階評定で評価します。				

6 担当者からの一言

われわれが生活している日本はどのような歴史をつくり、どのように発展してきたのでしょうか。今後日本で生活し、また国際社会のなかにていく高校生はぜひ理解を深めてください。